緑ネット通信

No.85

緑のネットワーク・まつど

代　　表：藤田　隆
年 会 費：1000 円
口座番号：00170-9-696174
連 絡 先：高橋盛男 090- 2935- 9444

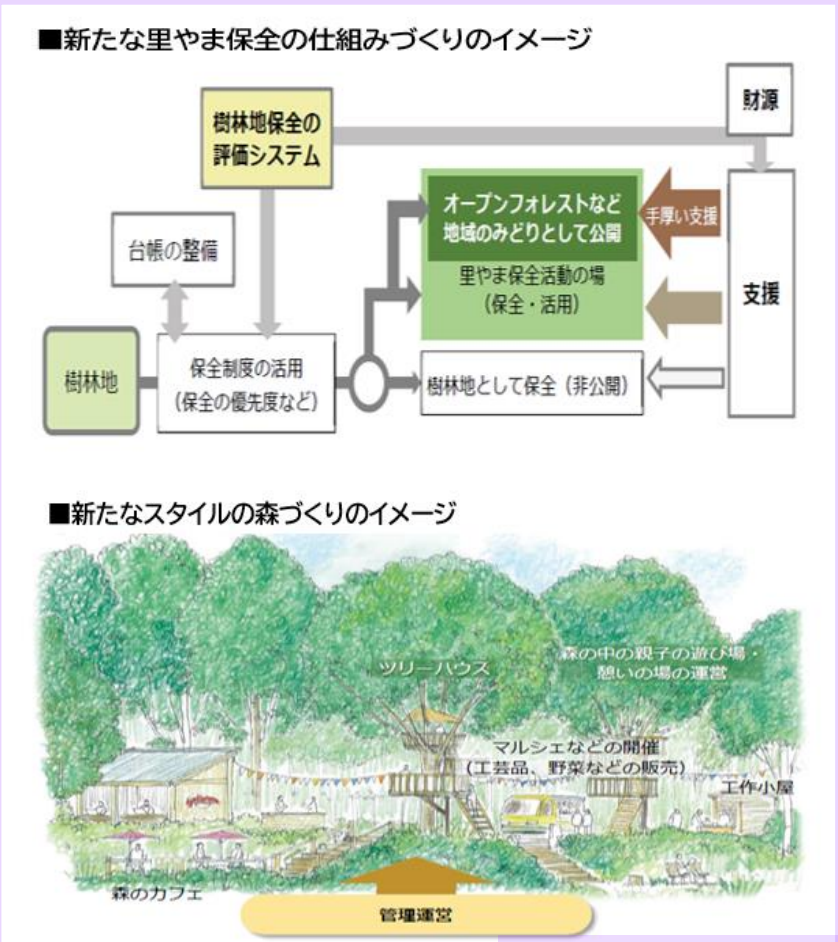
都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護･保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ，豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

フォレスト・マネジメントの仕組みづくり

松戸市　みどりと花の課長　三末容央

新しい「松戸市みどりの基本計画」に取り入れられたフォレスト・マネジメント。市内の樹林地保全、そして里やま活動とも深く関係する重点施策です。これについて、みどりと花の課の三末容央課長にわかりやすく解説していただきました。

「フォレスト･マネジメント」、直訳するとフォレスト（森･樹林地）をマネジメント（管理･運営）するとなりますが、 分かりやすく言いますと、「市内に残された森を可能な限り保全し、森の効用･機能を発揮させることで、森の存在をより身近なものにしていく」、そのための仕組みを再構築していくことを指し、令和 4 年春に公表した「松戸市みどりの基本計画」の中ではじめて皆さまにお示しさせていただいたものです。



松戸市みどりの基本計画より

松戸市では、これまでも里やま活動の皆さまや諮問機関である緑推進委員会などのお力添えをいただき樹林地保全を進めてまいりましたが、それでも樹林地の減少傾向は続き、昨年春には里やま活動が行われていた「秋山の森」も失うことになってしまいました。「秋山の森」を失ったことは、基本計画にある「フォレスト･マネジメントの仕組みづくり」を絵に描いた餅で終わらせてはならない決意を示す大きなきっかけとなりました。

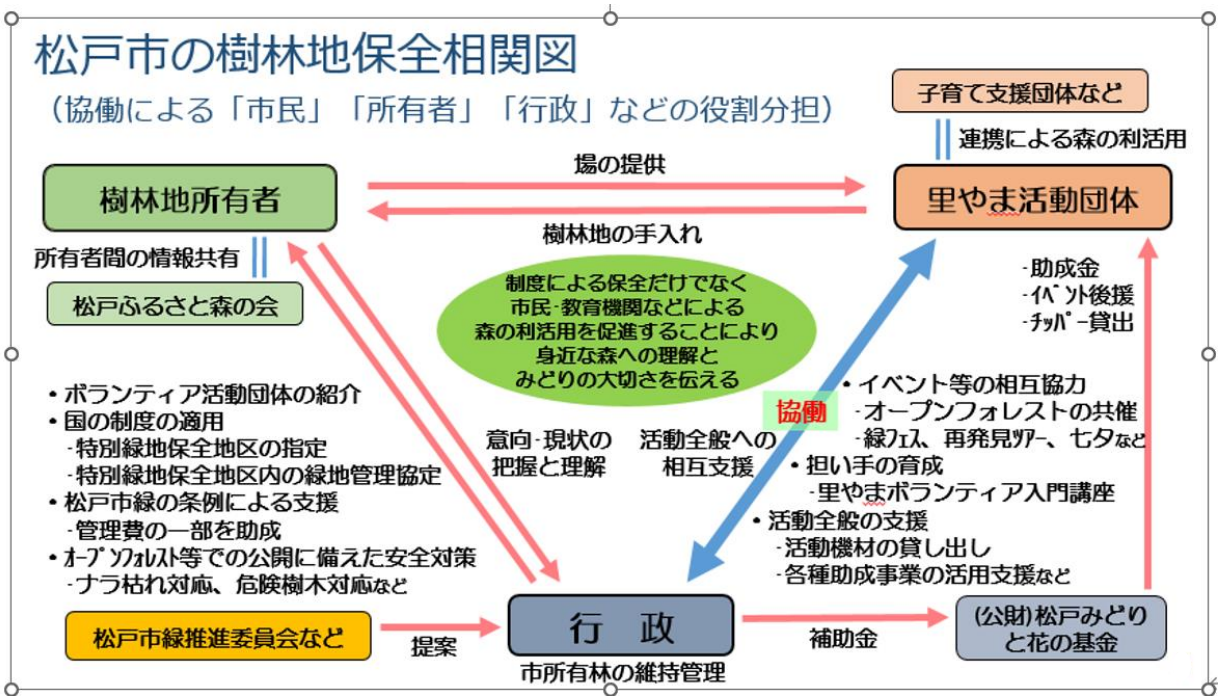
言い方は悪いですが、基本計画自体は良くも悪くも計画であり、実行力を伴うものではありません。よって実行に移すには次の行動が必要になりました。みどりと花の課の計画を市の計画に乗せる作業です。担当課だけが「樹林地、樹林地」と騒いでも予算がつく保証はどこにもありません。よって市の取り組みとして「フォレスト･マネジメントの仕組みづくり」を位置付ける必要がありました。

みどりと花の課では市内部でのコンセンサスを得るために、次のとおりフォレスト･マネジメントのロジックを整理しました。

① 市はこれまでにも「国や市の保全制度の活用」や、「市民活動(里やまボランティア)による森の利活用の促進」による樹林地保全施策を推進してきたが、相続の発生や維持管理の限界により民有樹林地の減少傾向は続いており、今のままでは今後も減少傾向は続いていく。
② 樹林地は都市において、生物生息の場、レクリエーションの場となるだけでなく、季節感のある景観をつくり、CO_2を吸収する大切な機能を有している。よってSDGsへの貢献が求められる今の時代だからこそ、市として樹林地保全を推進していく意義がある。
③ 樹林地の減少は今後も続くという前提に立ち、市は次の一手、二手先を考え、「全ての森ではなく、確実に守る森」を増やしていくことで、将来の憂いを取り除くことが肝要。
④ 「確実に守る森」とは永続性が高い森であり、「守るべき森」を定義し、安定的な予算(森林環境譲与税・松戸市緑地保全基金など)を確保した上で、既存の制度、新たな制度により確実に森の永続性を高めていく必要がある。
⑤ そのためには、「守るべき森」を定義するための必要な情報が盛り込まれた台帳を整備し、その台帳に基づき、「森ごとに保全する優先度を見える化」する必要がある。
⑥ 市は保全の優先度に応じて保全手法(特別緑地保全地区の指定促進、条例に助成の拡充など)を再分配し、守られた森では里やまボランティアの参画により森の利活用を促進させ、森を守る意義を市民に伝えることで価値観を醸成し、松戸の森を守っていく。

緑に携わる人にとっては当たり前のロジックだと思うかもしれませんが、このような長期的に大きな財政支出を伴うような事業を市の意思としてコンセンサスを得ることは簡単なことではありません。それでもやらなければならないという思いで基本計画に記載し、タイミングをうかがいました。このタイミングが意外と早く訪れました。ご承知の皆さんも多いと思いますが、都市計画マスタープランの策定です。まとまった面積を有する樹林地の多くは市街化調整区域に残されていることから、マスタープランにおける「市街化調整区域のみどりを保全する」という方針に、「フォレスト・マネジメントの仕組みづくり」の方向性が合致したものです。みどりの施策を事業化する上で、上位計画に取り上げてもらうことは大きな意味を持ちます。都市計画課、街づくり部長、副市長、市長と、市内部でのコンセンサスを得る作業は驚くほど順調に進み、今年3月の施政方針には「フォレスト・マネジメントの仕組みづくり」が謳われました。施政方針でお示しするということは市民の皆さまにお約束をするということです。

みどりと花の課では、今年度から最初のステップである「樹林地台帳の整備」に取り組みます。樹林地を保全する上での優先度を見える化するために必要な評価項目を設定し、それぞれの項目を調査していきます。その出来上がった台帳を基に、特別緑地保全地区の指定などの既存の施策や新たな施策、また里やま保全活動の支援拡充を、安定的な予算を確保した上で優先度に応じてメリハリをつけ再分配することをイメージしています。



今回はここまでのお話ですが、進捗に応じてまたこの紙面をお借りしご報告ができればと思っております。引き続き、皆さまのご理解、ご協力をいただきながら進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

ポイントアップ目指して スローライン練習会

８月１８日（日）野うさぎの森でスローライン練習会が開かれ、１４人が参加した。講師は市川市わんぱくの森、大町教育の森で活動する大峡章禧男さん。

スローラインとは、手の届かない高いところにロープを通す道具、細くて丈夫なラインに 300g 程度の重りを付けたもので、これをロープをかけたい木の股に向かって投げる。目指すポイントに投げるのは、なかなか難しいため講習会が開催された。

初めに**スローラインの役割**について説明があった。落としたい枯れ枝に投げて、落ちてきたスローラインをロープに結び枯れ枝などの処理に活躍する。また、高いところのしっかりした枝にロープをかければ、ハーネス、カラビナ、リギングギアといった装備を着用し、ロープを頼りに樹上に登り、梯子の届かない高所の枝の伐採も可能だ。

この日は、スローラインの練習会とあって、**的当てに挑戦するゲーム形式**で行われた。10 点 30 点、50 点、100 点と点が高くなるにしたがって難易度が増す。チャレンジに躊躇していた参加者も、何度か投げてコツがわかるとポイントアップを狙い、その場から離れない。見事に 100 点を取った猛者もいた。

高所の枯枝は森の安全のために早めに落としたいがなかなか難しい。今回の愉しみながらの技術力アップが里やま活動の励みになるのではないだろうか。(藤田隆)

まつど地域活躍塾とマッチング

これから松戸市内で地域活動・市民活動や NPO に参加して、地域で何かに取り組んでみようと考えている方向けに、まつど市民活動サポートセンターが取り組んでいる地域活躍塾。今年８期目の塾生たちが６月から来年３月までの間、全１５回の講座にチャレンジしている。

８月２７日（火）は市内で活動する団体に体験活動するためのマッチングの日。塾生の思い描いていた活動とマッチするのかを確かめる意味もある。団体と直接話して、団体が塾生と距離を縮める機会でもある。

今年は３人の方が森での体験活動を表明しました。「昔、この辺あそび場だった」、「住まいの近くの森、気になっていた」と動機もシンプル。

地域活躍塾から応援団や関さんの森を育む会の会員になった方も 10 人ほどいると言われている。貴重な戦力への期待も大きい。（藤田隆）

自治会の「夏休み子ども教室」が森にやってきた！

子どもたちの育成支援に力を入れている河原塚南山自治会の「夏休み子ども教室」(32 名)が野うさぎの森にやってきた。今年は 2 回目。

森のボランティア「樹人の会」の活動意味を分かりやすく説明した後森を一周。その後竹のバチを手に輪になってリズム遊びを楽しみ、定番のブランコ、竹ぼっくり、ハンモックやドングリ弾のパチンコなどに時間を忘れた。

後ほど届いたメールで、小 3 の子が「私の一生の思い出になったわ」と感想を述べたとのこと。バルセロナ五輪・水泳金メダルの岩崎恭子さんを思わせるほほえましい言葉は、ガイドに汗を流した会員たちにとって最高、最良の清涼剤となった。（イチニイ通信より抜粋　文・写真小林(政)）

竹ぽっくりに挑戦

８月２２日（木）幸谷小学校で竹ポックリづくりが行われた。幸谷小では夏休みの放課後児童クラブのイベントとして毎年行われ、この日は１、２年生が体験。８０人が５人ずつ入れ替わりでやってきて、ノコギリで竹を切り、ドリルであけた穴にひもを通して結び、ポックリを完成させた。一人あたり２０分で完成させるタイムスケジュールの中で、竹カット組、ドリル穴あけ組、紐通し組と分かれて作業した。完成して靴を通して歩くと子どもから自然と笑みがこぼれた。挨拶に２階へ上がると「楽しかったよ」と声が飛び、参加した応援団の有志は笑顔を返した。子どもの素直な反応は竹ぽっくり作りを続けるエネルギーのようだ。

（藤田隆）

暑くても！松戸の森は元気です！！

7/2　小学２年生自然体験　関さんの森
7/4　保育園児「自然散策と森あそび」紙敷石みやの森
7/8　ヤマユリ鑑賞会　芋の作の森
7/10 こども園園児　自然体験　関さんの森
7/21　ぷらっと子どもの森　囲いやまの森
7/21　そうめん流し　関さんの森
7/26　虫とあそぼう溜ノ上の森
7/28　Let's 体験受け入れ　野うさぎの森
8/1　ドンちゃんグリちゃん自然展「水鉄砲を作ってあそぼう」21 世紀の森と広場　里やま Q
8/3　Let's 体験受け入れ　三吉の森
8/4　Let's 体験受け入れ　関さんの森
9/8　ぷらっと子どもの森　囲いやまの森。

写真(左)は昨年９月、竹を半分に割ったものを線路のように敷いて…子どもの自由な発想で竹踏みコースが出来上がった。

～しぜんのコラム 58～

オオセイボウ

私にとっての「幸せの青い鳥」はルリビタキ。出会うと幸せな気持ちになる。そして「幸せの青い蜂」はオオセイボウ(大青蜂)。3 年ぶりに 21 世紀の森と広場でオオセイボウに出会うことができ、幸せな気持ちになったのだが……。

オミナエシで吸蜜するオオセイボウ 2022.9.7　21 世紀の森と広場

オオセイボウはメタリックブルーの美しいハチで、「飛ぶ宝石」ともいわれている。その生き方は、寄生(労働寄生)というもので、スズバチなどドロバチ類が寄生される相手(宿主)となる。

ドロバチ類は泥で巣を作り、青虫などを捕獲して巣に運び込み、卵を産み付けて幼虫の餌にする。オオセイボウは、自ら巣を作ったり餌を狩るようなことはせずに、ドロバチの泥の巣に穴をあけて産卵。孵化したオオセイボウの幼虫は、ドロバチが狩った青虫を横取りする形で食べて成長する。

つまり、寄生した宿主の体から栄養を搾取するのではなく、宿主が餌として確保したものを食べるという、宿主の“労働”を搾取するのがオオセイボウの生き方(労働寄生)。そんな生き方をするオオセイボウを見て、幸せな気持ちになるのは、ドロバチに申し訳ないと思うのだが……。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー（観察学習会）No.66

「新松戸のみどりをつないで関さんの森へ」

台地と谷津がおりなす新松戸の地形を感じながら、新しい住宅群に残されたみどりについて考えたいと思います

10 月 14 日(月 休)9：30～12：30 （小雨実施）　**参加費 300 円**（会員は 100 円）

集合　新松戸駅　改札口　9：30 集合　**持ち物**　飲み物、雨具

申込み・問合せ： 090-4078-3703（藤田 18 時以降）　**その他**　歩きやすい服装でどうぞ

※参加は申込制・先着４０名　（10 月１日より受付）